



池田大作研究(佐藤優著)と人間革命(池田大作著)を読んで

2021.02.22

2021.02.15

2021.02.08

池田大作研究と人間革命を読んだ。

感じたことは、創価学会の強さである。

その根底は仏教の強さであると思うが、釈迦の説く仏教(法華経)ではない。釈迦の仏教は、創価学会の信仰の中では神話時代のものである。神話は美しいものであるが力強さや実行力はない。

創価学会の力強い仏教(法華経)は、日蓮上人に始まる仏教であり、具体的で、躍動し、発展しているものである。

それは、牧口会長、戸田会長、池田会長が確立し、発展させてきて今日に至ったと言える。

両書にも見られるが、新しい挑戦と新しい成長があり、躍動感のあるものである。それは大悪起れば、大善来たるという日蓮上人の教えの中で実現してきた。

それでは、創価学会の仏教の将来の可能性は、いかなるものか。

牧口会長が説き起こし、戸田会長が体現し、池田会長が実践してきた日蓮上人の力強い仏法が世の中を改革して行くところ、実践は宗教の生命に将来があるのではないだろうか。

第一の問題 三十四の非ず

1944 年元旦を期して、拘禁されていた東京拘置所の独房で戸田は法華經を読むことにした。

元旦から読み始め、法華三部經を三度読み返した時は、既に 3 月に入っていた。

何度読み返しても全く分からないところがあった。

「其身非有亦非無、非因非縁非自他、非方非円非短長、
非出非没非生滅、非造非起非為作、非坐非臥非行住、
非動非転非閑静、非進非退非安危、非是非非非得失、
非彼非此非去来、非青非黄非赤白、非紅非紫種種色」

彼はこの部分に、「、、に非ず」という否定が、34 もあることを確かめた。この否定が何を表現したいためにあるのかさっぱりつかめなかった。

其の身が何を表しているのか。

34 の否定のうゑに、なおかつ嚴として存在する、その実体は一体何か、と深い深い深い思索に入ってしまった。

時間の経過も意識にない。今どこにいるのかも忘れてしまった。

彼は突然、「あっ！」と息をのんだ。

「生命」という言葉が脳裏に閃いたのである。「其の身とは生命なのだ」彼はその一瞬、不可解な三十四の「非」の意味を読み切った。「生命」は有に非ず亦無に非ず、、

仏とは生命なんだ！生命の表現なんだ。外にあるものではなく、自分自身の命にあるものなのだ。いや外にもある。それは宇宙生命の一実体なのだ！

彼は仏法が、見事に現代にも、なお、はつらつと生きていることを知り、それによって、現代科学とも全く矛盾がないものであることを確信した。

法華經には、「生命」という言葉そのものはない。

だが戸田は、不可解な 34 の「非」の表しているものが、実は、生命それ自体であることを突き止めたのである。

(人間革命 第 4 巻「生命の庭」から抄訳)

第二の問題は、釈迦は法華經 28 品で一体何を解き明かしたかったのであろうかという根本的な疑問であった。

一代聖教の肝要が法華經であるならば、その法華經の長髓とは何か―それは日蓮の南無妙法蓮華經に帰結する筈である。彼の頭は寝ても覚めても、法華經の真理とは何か、具体的には何かと問い続けていた。

―彼は、自然の思いのうちに、いつか虚空にあった。数限りない大衆の中であって、金色燦然たる光を浴びて、この本尊に伺って合掌している、彼自身を発見した。

 善悦が全身を走り、「これは嘘ではない。彼は、今、ここにいる！」

(人間革命 第4巻「生命の庭」から抄訳)

1. **キリストの後にキリストは無い。**
創価学会においてポスト牧口、戸田、池田は存在しない。
それはポストキリストの存在しないように、神は始めであり、
終りである。
それが原点であり全ては牧口、戸田、池田が、神のような核と
なって信仰が始まる。
2. **池田は両親に黙って、海軍少年航空兵に志願書を出した。**
しかし父は海軍の係官に断固として断った。
「うちは、上三人と四番目も戦争に行った。五番目の大作はと
てもなことがあっても行かせない。絶対反対だ。」
池田には長生きできないと認識、人生への実存的関心が強まっ
た。
敗色は明らかになっていく。戦争の終りは、誰も口に出さなく
ても近いことは察知していた。
とにかく学問以外にはない。戦争が終わったら勉強すること
だ。
3. **情報を得る。インテリジェンスの技法は二つある。**
 - (1) 人間関係を用いて秘密情報を得る。
軍事関係以外の情報は、これによって 95%以上得ることが
できる。
 - (2) 公開情報によって情勢を分析する。
国家機関は、真実をすべて開示することはないが、国家の
信用を失うリスクを犯して積極的な虚偽情報を公式の場で
流すことはほとんどしない。
真偽の不確かな信用情報よりも公式文書を分析する方が、
情報の入手には適切である。
私は、創価学会の公式文書により本書を書く。
4. **当時、池田が読んだ本は、勝海舟、カールライル、ダーウィン**
「種の起源」、石川啄木、バクーニン「奈落の人々」、バクーニ
ン「神と国家」、岡倉覚三「日本の目覚め」、三木清「人生論ノ
ート」、国木田独步、プラトン、三太郎の日記、幸田露伴「頼
朝」、ルソ「エミール」、内村鑑三「代表的日本人」、プラトン
「国家」、...

5. 世界宗教である創価学会は、地域に土着する方向を明確にしている。

イエス(Jesus)と日本(Japan)を同時に愛することが日本人キリスト教徒には求められている。

これは世界宗教であるキリスト教は、それぞれの地域に土着化しなければならないという意味である。

キリスト論的集中とは、イエスの行為と言動を読み解けば、その世界で起きるすべての事柄がわかる。

6. 危機の時代に仏教を再確立したのが日蓮だ。日蓮を起点にしなければ、現実の存在する人間の救済はできない。日蓮は法華教の肝心である。

牧口は、日蓮の仏教に帰依し、仏教が生活法であり、価値創造の源泉であるとした。戸田は獄中において、「仏とは生命なり」との悟りを得た。

内村は、日蓮は日本における宗教家のうち、前代未聞の人であるとし、日蓮の独創と独立によって仏教を日本の宗教たらしめたのであるとした。

7. 池田は、集まりに出席して初めて会った戸田に、「先生、教えていただきたいことがあるのですが、、、」と質問した。

戸田は、「何かね、、、なんでも聞いてあげるよ」と言った。

「先生、正しい人生とは、いったいどういう人生を言うのでしょうか？考えれば考えるほどわからなくなるのです。」

戸田は顔をほころばせて言った。「さあ、これは難問中の難問だなあ！この質問に正しく答えられる人は今の時代には一人もいないと思う。僕には答えることができる。福運があって日蓮大聖人の仏法の大生命哲理を読むことができたからです。」

戸田は続けた。「正しい人生は何ぞやと考えるのもよい。しかし、考える暇に大聖人の仏法を実践してごらんなさい。必ずいつか、自然に正しい人生を歩んでいることを発見するでしょう。」

8. いくら考えても、それだけで人間は変わらない。

正しい信仰に基づいた実践が重要なのである。

この場で聞いた戸田の教えが、池田の人生に強い影響を与えた。

10. 創価学会が世界宗教に発展する過程で、宗門からの決別は不可避であった。

それは、僧侶が上、一般信徒は下とする見方からの決別だ。世界宗教への道を追うためには必須のことだ。キリスト教のユダヤ教からの決別と同じだ。

11. 夜学は辞め、師からすべてを教わった。

1 本脚のテーブルー池田は戸田を心から信頼した。

テーブルは 1 本脚でもそれがしっかりしていれば倒れない。4 本の脚があっても、寸法が合わないとはがたがたする。

12. こんな男に誰がした、と歌った。美しい師走の夜だった。事業打開の糸口を求めて、埼玉県の大宮方面に出かけ、不調に終わって川の流れに沿って、二人での帰路のことである。

戸田先生が振り返られて、「おれだよ」と言って屈託なく笑われた。生きるか死ぬかのような、苦境の時である。

池田は、戸田の宗教活動と企業活動を全力で支援した。

13. 池田は創価学会の信仰に忠実だ。

だから、他の宗教の信者や宗教を信じていないと考える人との対話ができるのだ。

14. 聖教新聞は戸田と池田の 2 人で創刊

(1951 年 4 月 20 日)

1952 年 4 月 28 日 サンフランシスコ平和条約が発動。

1952 年 5 月 3 日 白木香峯子と結婚。

1960 年 5 月 3 日 第 3 代会長に就任、そのとき香峯子は池田家の葬式と言った。

15. 広宣流布は、結局は御本尊様の仕事です。

自分たちがやっていると思うのは一種の傲慢です。

16. 1955 年 4 月地方統一選挙

東京都議会 1 人、横浜市議会 1 人

東京特別区 32 人、神奈川、埼玉、千葉、群馬の各市で 19 人

フランス革命では、ロベスピエールの恐怖政治。

ロシア革命では、スターリン主義。

全てが権力の魔性の仕業。

森川幸二は横浜鶴見区の会員である

熱心に信心をしていた。ある日、戸田に呼び止められた。

「森川君、話がある。ほかでもない君にぼつぼつ理事になってもらおうかと考えている。どうかね。」

彼は、意気揚々とわが家の敷居をまたいで、床についた。

翌朝のことである。いつもの時間に信用組合に出社すると、理事長から呼ばれた。

理事長室に入るなり、理事長から「実は、君に今日限りここを辞めてもらいたい。」まさに青天の霹靂である。

曲がったことの嫌いな彼は、組合の出資者である大地主と激突したことがあり、それが原因らしい。森川は戸田のところへ行った。

戸田は、「家族何人だ？」と問った。「8人です。妻と老母と子供6人です。」

戸田は、「そうか、困るだろう」と言った。森川は、「困ることは困りますが、水を飲んでも信心だけは貫きます。」というと、戸田は、「信心で勝負だ。やってみろ！裸になって信心を！」森川は職場に戻り理事長に退職の旨を伝えた。

夕食の時、元気に集まってきた家族の前で、やっとのことで、「今日、職場を辞めさせられたんだ」、一同は「あっ」と驚いた。

「みんな、どうか心配しないでくれ。信心で勝負だ。『大悪起れば、大善来たる』だよ。」

仕事から帰ってきた長男の一正もショックを受けたようだが、最後に父の決意を聞くと、

「お父さんの信心は大したものだ。よし、僕もやるぞ」と言った。生活困難な時代に職を失い、一家8人の生活は容易ではない。

大人たちは額を寄せて考えた。

そして、しばらく日が経ったとき、老母が提案した。

「今の時代、みんな腹を空かしている。食堂をやってみよう。家族8人の毎日の炊事の規模を数倍に拡大しよう。これは商売になる。」そして素人の食堂が始まった。

(人間革命 第3巻「道程」から抄訳)

大阪地方区

「これで、今度の関西の戦いは勝った！」という山本伸一の言葉を耳にした関西の首脳幹部はごくりと唾を飲み込んだ。この 1956 年の 7 月には第 4 回参議院議員選挙が予定されていた。

7 月 9 日、大阪地方区の開票が始まり、春木征一郎は意外に第三位を続け、「当選確実」というアナウンサーの声が響いた途端に、「わーっ」という歓声があがった。

「不可能を可能にした」瞬間である。

人間革命 第 10 巻、「展望」より抄訳

20 万人以上と言われる当選ラインに比して、大阪地方区の会員世帯は、3 万人に満たない。大丈夫かという想いである。しかし山本伸一は違った。

一つには、戸田先生の構想、第二に自身の広宣流布の本格的な初陣に敗れてはならない。

これは、未来の戦いの勝利に通ずる道を開くことになる。

(人間革命 第 10 巻「一会」から抄訳)

16. 1945 年 8 月 6 日、恐るべきことが広島に起きた。

人類史上初めての原子爆弾が実戦に使用された。

一発の爆弾が非戦争員である市民、20 万人の死傷者を生んだのである。

ドルーマンの原爆投下は、ソ連の発言権を封じるために、ソ連の参戦を見ることなく戦争の早期終結を狙ったものであった。

17. マルクスは、ヘーゲル(プロテスタンティズム)を批判した。

ルターの宗教改革は、人間の外面的な信心(教会)を人間の内面的な信心(個人)としたにすぎない。このような宗教改革には限界があると批判した。

現世を肯定して社会改革はできないとし、宗教は民衆の阿片であると批判した。

マルクスは、現世(資本家主義)を否定(革命)すべきとした。

しかし、池田はそれでは個人の心の問題(信仰の自由と布教)を解決できないとした。

池田は、そのマルクスの生命軽視(生命観の誤り)を生命に対する理解が不十分だと認識した。

18. 究極のものと究極以前のもの

ドイツのプロテスタント神学者ディートリヒ・ボンヘッファーは政治や経済は「究極以前のもの」とし、信仰や愛は「究極的なもの」とした。

19. 「伸一伸一従って来なさい」

これは鎌倉時代に日蓮が体験した事柄の反復である。牧口、戸田も権力の魔性と戦った。

1957 年 7 月 31 日 7 時ごろ大阪府警は伸一を逮捕した。

20. 伸一は、翌日、容疑をすべて認め、供述することを主任検事に伝えた

21. 牧口先生は、「死身弘法」の精神をご自身の殉教によって後世に残されたのである。

22. 戸田は有言実行の人だ。

12 日夜、東京の蔵前国技館で池田と小泉の不当逮捕を糾弾し、大阪地検に猛省を促す東京大会が行われた。場内に 2 万人、場外にも 2 万人、合計 4 万人が参加した。そして質問会も行われた。

23. 「皆様、大変にしばらくでございました。」

1957年7月17日午前0時10分に池田は大阪留置所から保釈された。

24. 「大悪起れば大善きたる」、日蓮

1959年6月の参議院議員選挙で、東京地区と全国地5人が当選する。

創価学会に属する参議院議員は9人、都道府県議会議員7人、市区会議員268人、計284人になった。

1960年5月3日、池田は創価学会第3代会長に就任する。

大阪事件によって創価学会は一層強くなった。

25. 王の支配する地に生まれたが故に、

身は権力のもとに従えさせられるようであっても、心は従えさせられることはない。

流罪地の佐渡から鎌倉へ戻った日蓮が、日蓮を迫害した権力者平左衛門尉に対して言った言葉。

26. 「創価学会を斬る」

政治評論家で明大教授著、1969.11.10発行

衆院議員当選46名

1969年12月27日衆院議員総選挙、公明党47議席(前回25)、

自民288(277)、社会90(144)、民主31(30)、共産14(5)

1970年750万世帯達成

27. 「僧侶が上、一般信徒は下」

第一次宗門事件(1977、宗門僧による創価学会攻撃)

28. 七つの鐘

第一の鐘 1930-37

第二の鐘 1937-44 牧口会長の獄中の逝去

第三の鐘 1944-51 戸田会長の就任

第四の鐘 1951-58 戸田会長の逝去

第五の鐘 1958-65 大発展 池田会長

第六の鐘 1965-72 750万世帯達成

第七の鐘 1972-79 池田名誉会長

29. 1980年4月29日「反転攻勢」

1979年4月池田は創価学会会長辞任(名誉会長)

トインビー 歴史の研究③

(181~232)

項 目	内 容	備 考
第三篇 文明の成長 第 2 章 文明の成長の性質 (181ー	1. 最適の挑戦とは 最も大きな刺激を与える<u>挑戦</u>とは、きびしさの過剰ときびしさの不足の中間の程度の挑戦である。不十分な挑戦は、挑戦された人間を全然刺激しないおそれがあるし、反対に過度の挑戦はすっかり士気をくじいてしまうおそれがある。しかし、スパルタ人などの挑戦のはなれわざは、それを行った者に、発展の停止という致命的な罰を課することもある。 真の最適の挑戦とは、挑戦された人間に、ただ一度のうまく成功する応戦をさせるだけでなく、さらに一步進むように刺激する挑戦、一つの事業の達成から、また新たな努力へと前進する挑戦である。<u>それは、地理的拡大が質の低下を示しはじめた 5 世紀までのヘレニック社会の拡大のように。</u>	
第 3 章 成長の分析 (198ー	1. 創造的個人 創造的な少数者が前進し、非創造的な多数者をそれに従わせる。或いは、慣習の殻を破り、創造的少数者を模倣する。	
第 4 章 成長による文化 (211ー	2. 仏教の伝播 (1) 釈迦牟尼 BC566~486(BC462~383) (2) 鳩摩羅什 344~413(350~409) (3) 智顗 天台大師 538~597、<u>法華主義</u>	

項 目

内 容

備 考

- (4) 聖徳太子 574～622、三経義疏、仏教興隆
 (5) 最澄 767～822、伝教大師、顕詮、奈良七大寺と京都の対立
 (6) 桓武天皇 737～806、794 平安遷都
 (7) 空海 774～835、弘法大師

(無量義経)

釈尊最後の説法、すべての教えはただ一つの真理、無量義にある。

無量義(数限りない教え)－無相、実相－世界は一切が平等、虚空－諸行無常－変化の中的一切の本質を見る－生・住・異・滅－自利利他

←(8)日蓮 1222～1282
 日蓮宗 日蓮正宗

3. 真理と価値

「価値」とは、対象と我との関係を表現したものの、主観である。

「真理」とは、有りのままの実在を表現したものの、客観である。

価値は、対象と人生との情的関係性であり、真理とは対象の概念であり、全くその性質を異にする。

価値は、人生に質的に関係するものであり、真理は、あるがまま量的なものである。

価値は人が創造するものであり、真理は、真が偽であり創造することはできない。

有益性は、創造であり、価値である。

客観

真・善・美という系列は、真という客観と善美という価値の無関係な並列であり、利・善・美の系列が正しい。

主観

真理は不変、価値は可変

価値

教師の質が教育を左右する－価値

(創価教育学体系 牧口常三郎著)

トインビー 歴史の研究④

(233~311)

項 目	内 容	備 考
第四篇 文明の衰退 第 4 章 <u>自己決定の能力の減退</u> (233-	1. 衰退の原因 (1)神のしわざではなく、 (2)意味のない自然の法則のくり返しでもなく、 (3)環境を支配する力の喪失のせいでもなく、 (4)工業技術の退化や外敵のせいでもない それは文明の自殺である。 2. 有機体の機能 自然は有機体の機能の 90% ぐらいを、自動的に最小のエネルギー消費で行われるようにしている。 ここに破局の危険が潜んでいる。 「慣習の殻」で安定していた社会が、向きを変えて創造的リーダーに引きいられていくとき、成長する社会は危険に直面しなければならない。 3. 古い皮袋に入れた新しいぶどう酒 (徳行品第一) お釈迦さまが、靈鷲山で説教されるとき、そのまわりには多くの出家修行者、菩薩に、空の鳥や妖怪、地の動物や鬼神、海底に住む魚や鬼たちも加わり、大王や諸国の王や女王、その家来などが整然と控えておりました。 お釈迦さまは、すべてのものに上下はなく、この世はすべての広さと高さに関りはなく、どこまでも澄みきっており、一切の差別はないと話された。また、仏というのは、善行を積み、慈悲の心を持ち、智慧、解脱、知見などの修行の結果であり、仏も衆生の一人として法華経の善行を積んだ結果である。 仏の命、人の命は、有るとか無いとかで図れない。何かの因となったり縁となることもなく、自他の区別もない。 四角いとか丸いとか、短いとか長いかで考えるものではない。 出るとか隠れるとか、生ずるとか滅するものでも	
(237-		

項 目

内 容

備 考

なく、坐っているでも、臥しているでも、行くでも住まるものでもない。

動いているとか、転がるとか、じっとしているものでもない。

進んだり引いたり、安全であるとか危険であるといった見方では考えられない。

これは、得になるとか損失になるとか、そのような計算ではない。

あれはこう、これはああという区別はなく、あちらに行くでもこちらに来るでもない。

青でもなく、黄でもなく、赤いでもなく、白でもない、それは色で現わしようがない。

それは自分の、人の、世界の生命であり、すべての幸福を求めることが根本である。

(説法品第二)

仏の説かれる“法”は一つ、根本原理はただひとつその一つの法から無量の（数かぎりない）法が生まれる。

世尊は問われて、答えられました。

よろしい、いい時に訊いてくれました。いま、訊かないとその機会はないのです。わたしはもうすぐこの世を去ろうとしているのですから・・・。

世の中のことは、上、下もない。平等で透きとおっている。そして、無常で変化してやまない。その中で一切のものごとの実相を見極める修行をすることが大切である。

先ず、その世界を見つめる、どんな世界かを正しく見極める。

(1)それから、そこに生ずるものを発見する

(2)生じたものが安定することを見つめる

生じたものは変化しないかどうか見つめる

(3)変化したらそれを見つめる

(4)変化が滅になることを見つめる

これらを冷静に見通さねばならない。同時にその善悪も知らねばならない。

世の中は、変化して一刻も止まず、その(生)(住)(異)(滅)という変化を見てとらねばならない。その中から無量の教えが明らかになる。

(十功德品第三)

法華經の教えを実行すれば、十の不思議な功德がある。

(1)大乘の教えを学び、自分の幸せ(自利)と人の幸せ(他利)を起こさせる

(2)この教えは、譬えれば心に一個の種子を植え、その成長を図るものである

(3)この教えとは、力の強い人が重い荷物をかついで遠い道を力強く行く観がある

(4)竜の子が生まれて7日も経たないのに、よく雲を起こし、雨を降らせることができるようである

(5)この教えを聞けば、どんな困難があっても進もうという強い心が起きる

(6)この教えを修得すれば、幼い、弱い身であっても自立した考えと行動ができる

(7)この教えは信ずれば、自他の間に差別を感じず現象の変化に迷うこともない

(8)この教えは、人に深い慈悲の心を生じさせ、人々を救うことができる。

(9)この教えに接すれば、人は魂の躍動を覚え、清らかな心となる。

(10)さまざまな信仰の結果と仏の道を悟ことができる。

[2] 予測学入門

2021.02.22

セオリー・モリス

高橋秀明氏

IPPR、立命館大学

2021.01.11

Q 701212-74

過去6年間にわたり S字型曲線を描いた経験

から、私は二つのことを実感した。

まず ひとつめは、多くの現象が必ず 誕生、成長、成熟、

衰退 (死) というライフサイクルを遂げていくということである。

二つめは、予測可能性がある、成長期ある段階を

把握できれば? 自然界のこともあり、社会、経済、個人の人生

のあり 全体像をイメージし、この自然の運命の各段階を

予測する必要がある。

1. 科学と予言

(1) ハンテナーが アンディに、金と 杖に 幸福と 予言力のうち、とどか一つか手に入らねば、どれを選ぶかと、たずねる。「予言力」とアンディは答える。

「俺は金で金儲けをする。金儲ければ杖が手に入る。そうすれば、おのずから幸福になれる。」

(2) 科学者は予言者と違って、予言の代わりに推定と云い、運命の代わりに法則を、事故の代わりに統計上の誤差という。

(3) 天気予報は、長期気象予報の名のもとに 豊富な財源、優秀な人材を集め 多種多様な気候モデルと大量のデータを用いた 1 週間、2-3 日を対象とする予報を可能にしたためである。

(4) 経済予測も同様である。

膨大な数の数値データ - 方法、モデル、予測 - といくつもの変数の方程式を使って ものである。

おおむね、経済上の予測は当たらない。

(5) 成長 経済曲線

累積成長 グラフ

釈迦は菩薩たちに、最高無上の悟りである、無量義の教えについて説いた。(無量義経 記法品第二)

菩薩欲得修学无量义者，应当观照一切诸法，自本至今，性相空寂，无大无小，无生无灭，非住非动，不进不退，无生无灭，非住非动，不进不退。犹如虚空无有二法。

ものごとのすがたを正しく見極めることにより、

これから何が起こるものごとかが生じてくるか(生)、死んで、その姿や状態を保つか(住)、黒くなったものに变化するか(異)、あるいは消滅するか(滅)を冷静に見通すことの必要である

この生、住、異、滅というものごとが移り変わりとその原因、結果とを見極め、世の中りすべてのことから、一刻も不変の姿をいふことはなく、常に生れ、かゝる滅していることを悟らねばならない。その生、住、異、滅という変化をよく見てとらねばならない。

2. 山のように千し草の中の針

S字型曲線と予測

(1) ルーシーとヘリー-フーズ ✓

(2) S字型曲線の最初のくわんは、能力の限界(許容量)を示す

千し草のなかの針の数はとくととどめていく

(3) 幼児の語彙の発達と千し草の中の針

(4) スケウパイプの経済

3. 生命の再生のよる生物の生産

(1) S字型曲線の父

ヘルバーの数学者 ヘルハースト
人口増加の限界

(2) ロカ と ボルテラ

捕食関係の方程式
ボルテラ・ロカシステム 微分方程式

(3) 金の先物と代替品

(4) 石油の生産と代替品

△ 創造力の繁栄と衰退

(1) 1960年代の10年間

12772222、12772222、公民権運動、マレーシア
12772222、12772222

(2) 21422222、100人の100人の生産性、5字型曲線に
21422222、100人の100人の生産性

5. 善いことと悪いことはしるべきである

(1) 善悪、よいことと悪いことは定数ではない

(2) 千草の中に見つけられる針の数は、時が経過とともに
多くなるだろうが、木が千草の中に見つかることで
残っている針の数は反比例に減っていく。

(3) アフリカの最期の将来について悲観的ではない

(4) アフリカの1人1人への負担を減らす

6. 生存競争の厳粛な事実

(1) 欲求そのものが革命的な変化を仕かける

同じ欲求を満たすのに 新しい方法や、旧来の方法と斗争
という自然淘汰の仕組みがある。

久 競争は 創造と調和の原点

(1) 競争(競争): 経済的関係にある
とらえの経営者 入ラレトス
適者生存競争

(2) 自然淘汰 適者生存の法則

(3) 組織は、生存のために、最適状態を必死に探す

(4) 長く生き残るには、保守的行動と、
革新的行動との選択を必要とする

(5) 良いことも悪いことも起るヒート
10年単位の調査で ~~50~~ 60年^毎の4回のヒートがある。
P

1760 P

1780 b

1820 P

1840 b

1880 P

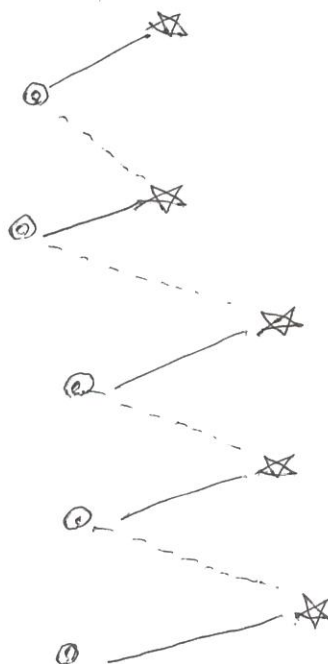
1900 b

1940 P

1960 b

2000 P

2020 b



まとめて現れる技術革新

10年単位の数

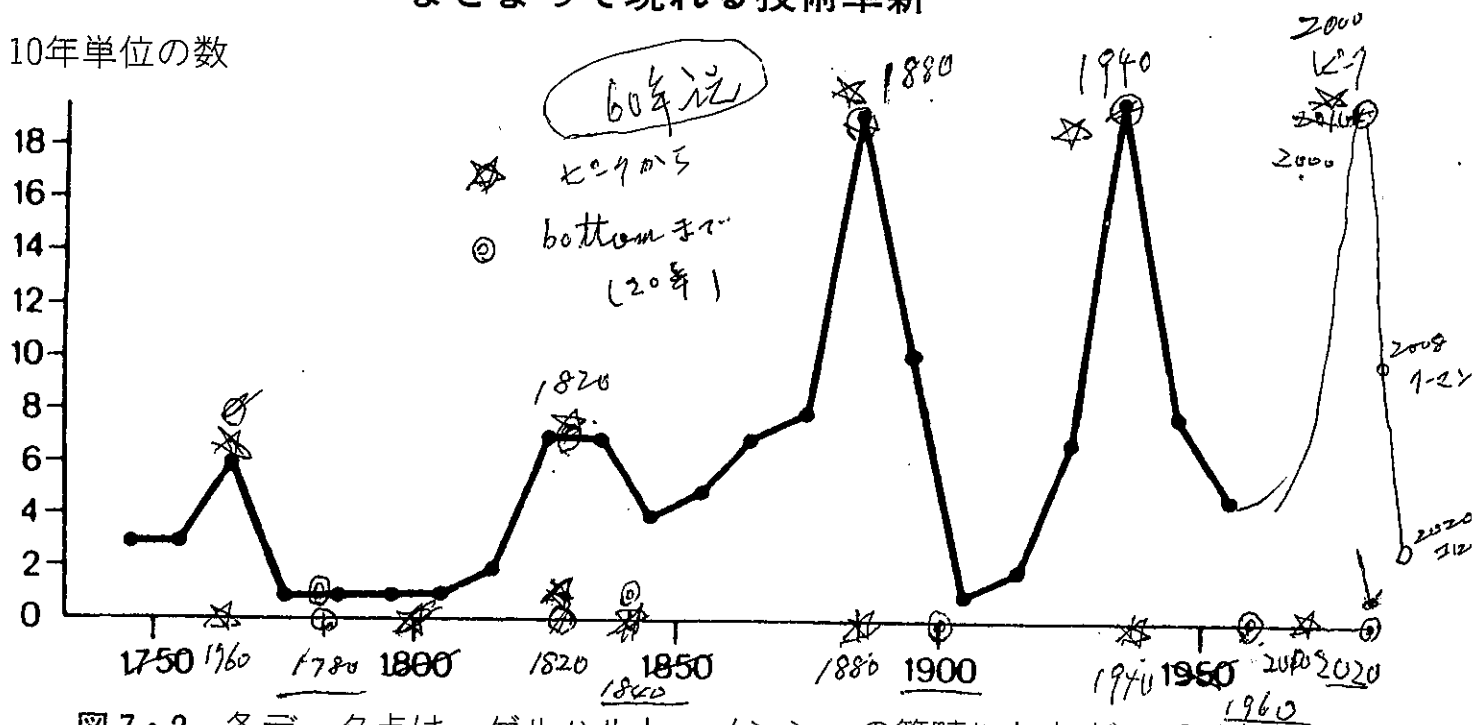


図7・2 各データ点は、ゲルハルト・メンシュの範疇にしたがって10年ごとの基礎的な技術革新の数を示す。大きな変動が起きた期間がよくわかる。*

* 出典：Gerhard Mensch in *Stalemate in Technology: Innovations Overcome the Depression* (Cambridge, MA: Ballinger, 1979). Reprinted by permission of the publisher. See also the German edition, *Das technologische Patt*. (Frankfurt: Umschau Verlag, 1975). The German edition is preferable for details on how the data were selected.

メンシュの根本的革新と見た定義には若干恣意的なところもあるが、そこに現れる波形のパターンはほかの試みのなかでも持続性を持つものである。革新は農産物のように季節的に現れている。果物の摘み入れの後の冬期間中は手入れの季節となる。そして、春になると次の作物を生み出すために花をつける。これと似た現象を公にしたメンシュによれば、ある社会環境のなかで起こる革新はすべて類似しているという。この場合社会環境は果実にたとえれば「木」であり、革新が「果実」である。メンシュの結論はほかの根本的革新の範疇によっても確認されているのであるが、私は二世紀の間

7

(6) 1987 グローブインター

(7) コントラクト7循環 (1892~1938)

技術革新の集団的発生に起因する景気循環の
長期波動

(8) シンハーロー (1883~1950)

イハローは生産技術の革新のほか、

新商品の開発、新市場、新資源の開拓、

新しい経営組織の形成などにした。

特に経済発展の理論は、資本主義発展の原動力としての
「企業者機能」に重点を置いた。

(9) ストーンハンセン

Excel での時系列分析

2021.2.22
2021.2.15
2021.2.8

1. 時系列データ

時間 (時、日、週、月、年) とともに変化するデータ

2. 予測は適切な予測と誤差に不可欠な行為である

予測する将来の時点に 内挿ではなく 外挿 である

3. 予測問題

(1) 数値予測

明日は、100%は何個売れるか

(2) 判断予測

○か×かの判断、合格、有無

デマンド・イン・ニギロ

多変量解析

(3) 最適予測

適切な組合せの予測

※ 数値予測

(1) x, y 関連法

$$y = a + bx \quad (\text{回帰分析})$$

(2) y 単独法

$y_1, y_2, \dots, y_t$ に対して y_{t+1} を予測する

5. 预测手法

最近予測法を学ぶ

6. 時系列データの4つの基本パターン (変動要因)

(1) 傾向変動 (Trend) トレンド

(2) 循環変動 (Cycle) サイクル
周期的変動

(3) 季節変動 (Seasonal)

(4) 不規則変動 (Irregular) ノイズ

突発的な出来事による変動
近未来予測に不利

7 時系列分析

時系列の経過、傾向、季節、不規則変動

傾向変動、循環変動、季節変動、不規則変動の4つの変動要因の組み合わせ

8. 時系列分析

過去に起こったこと

過去の傾向を分析し、今後の予測に活用すること

長期的な増加や減少、季節的な傾向

原型となる時系列データ + 将来の推定

傾向の組み合わせ、特性の検出

9. 時系列データの組み合わせモデル

(1) 加法モデル

$T + C + S + I$

4つの変動要因の和

(2) 乗法モデル

$T \times C \times S \times I$

10. 季節調整

移動平均法による季節調整

11. 12月中心化移動平均

(1) 2014.12の移動平均を求めよう

(2) 2015.1~12の移動平均を求めよう

(3) 2015.5と2015.6の平均を求めよう

13. 単回帰分析

x と y の 2 つの 変数間にある関係式 $\rightarrow$ 1次式化

$$y = a + bx$$

$x \rightarrow y$ を説明する
= 説明変数 x の 1次

a (y の切片) $\rightarrow$ 最小二乗法で求めた

b (傾き) $\rightarrow$ $\therefore$

13. 誤差

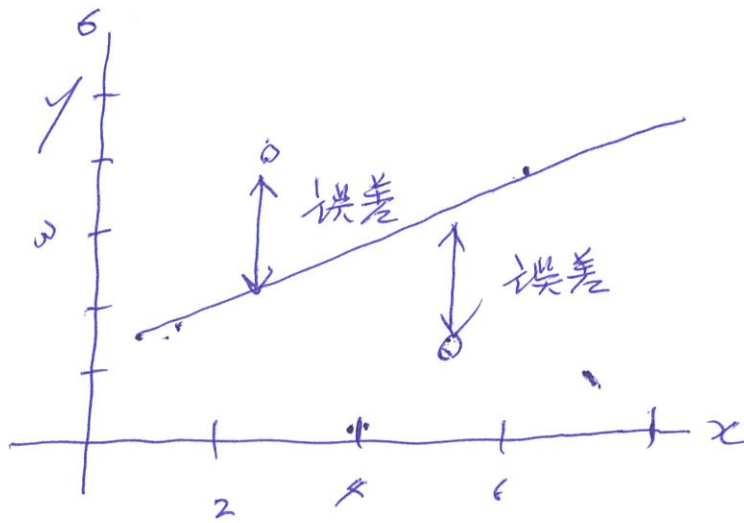
$$y = a + bx + \text{誤差}$$

$$b = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}$$

$$\bar{x} = \sum_{i=1}^n \frac{x_i}{n} = (x \text{ の 平均})$$

$$\bar{y} = \sum_{i=1}^n \frac{y_i}{n} \quad (y \text{ の 平均})$$

14. $y = 0.473x + 1.2027$



15. 相関(係数)

ある量とある量との線形な関係
関係の強さを示す

$$r = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sqrt{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2} \sqrt{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2}} = \text{相関係数}$$

r は、常に -1 と 1 の間にある

正の相関 . x, y ともに増加する

負の相関 x の増加, y の減少

図 777 に $r=2$ 乗値を表示する

16. 简便的检验方法

$$r^2 > \frac{K}{\text{特征数} + 2}$$

----- 相关系数与判定系数

17. 对数近似

x 和 y 在说明公式中

$$y = a + b \log(x) \text{ 公式' 被利用了。}$$

18. 变量变换

$$\log_e \rightarrow LN$$

$$\log(x) \rightarrow x$$

$$\sqrt{x} \rightarrow x''$$

19. ax^b 乘近似

$$y = ax^b$$

$$\log(y) = \log(a) + b \log(x)$$

$$y' = \log(y), a' = \log(a), x' = \log(x) \text{ 中}$$

$$y' = a' + bx'$$

ハッセル近似

$$y = a \cdot x^b$$

$$\log(y) = \log(a) + b \log(x)$$

x 経過年	y 737利用者	$\log(x)$	$\log(y)$
1	15.775	0	9.666182
(2)	18.090	0.693147	9.803115
3	19.885	1.098612	9.846123
4	19.857	1.386294	9.896312
5	19.991	1.609438	9.903038
6	20.563	1.791759	9.927839

$$\ln 2 = 0.693147$$

$$\ln 18090 = 9.803115$$

$$y = a \cdot x^b$$

$$\downarrow$$

$$\log(y) = \log(a) + b \log(x)$$

$$\therefore y' = \log(y), \quad a' = \log(a), \quad x' = \log(x) \quad \text{と} \quad (17)$$

$$y' = a' + b x'$$

Excel 散布図 上の 単回帰式を zfc として、

$$y' = \underbrace{9.6767}_{a'} + \underbrace{0.1508}_{b} x'$$

$$a = e^{9.6767} = 15942 \quad \text{と} \quad \text{近似}$$

$$y = 15942 \times x^{0.1508} \quad \text{と}$$

べき乗近似の近似式が得られる

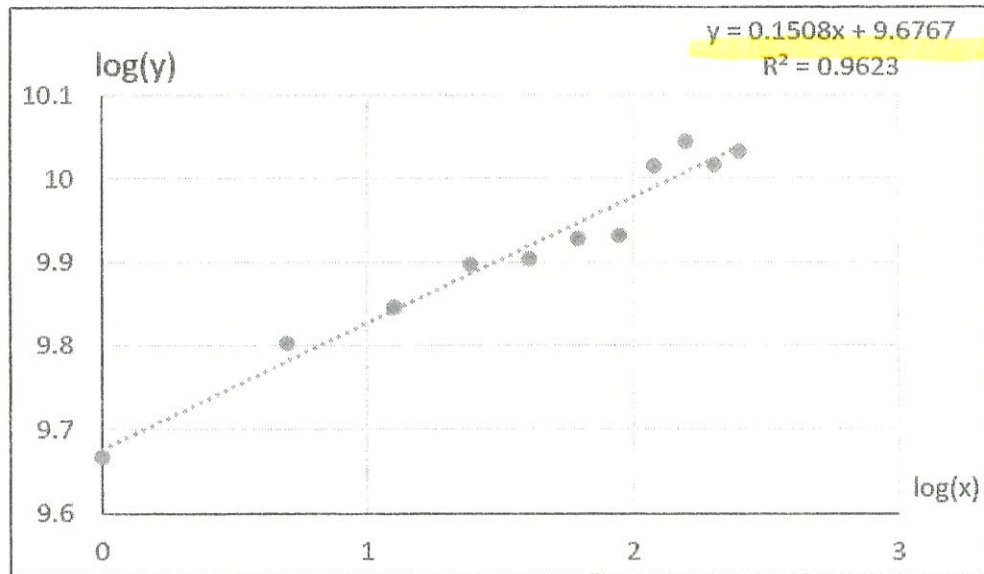
図 2.12 $\log(x)$ と $\log(y)$ の散布図

図 2.12 より、 R^2 値（相関係数の二乗の値 r^2 ）が 0.9623 と 1 に近い値になっていることから、この近似がよい近似になっているといえます。

経過年と利用者数の散布図を描いてみると（図 2.13）、データがべき乗近似（累乗近似）の線によく沿っていることがわかります。

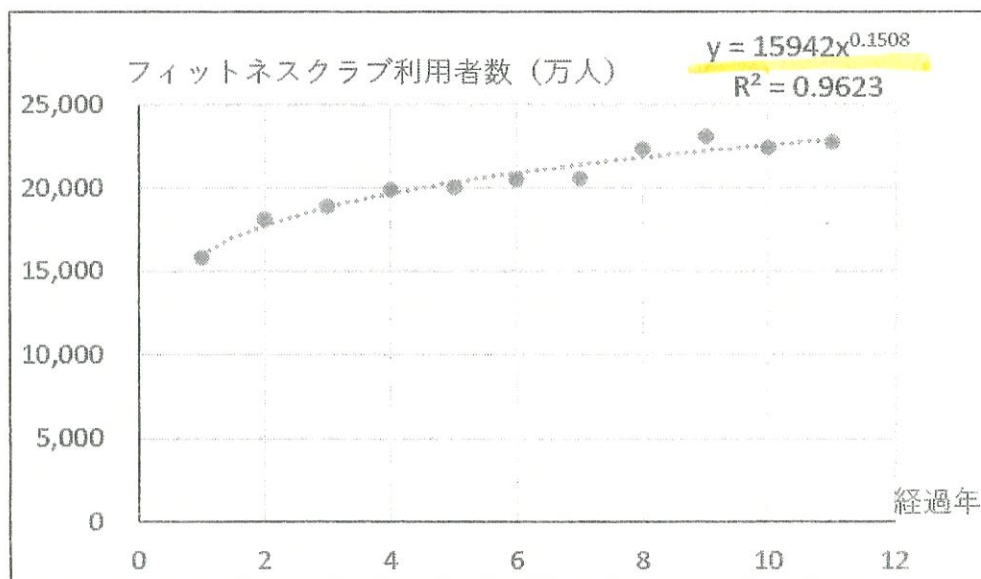


図 2.13 経過年と利用者数の散布図

Excel で学ぶ時系列分析
上田 太一郎 監修 近藤 宏 編著
オーム社

20. 指数近似

$$y = a \cdot e^{bx}$$

$$\log(y) = \log(a) + bx$$

$$y' = \log(y), \quad a' = \log(a) \text{ として}$$

$$y' = a' + bx$$

このように式変形して、 x と y' のデータを用いて、
最小二乗法を用いて a, b を求め、
指数近似を実現する

指数近似の時 x と y を説明する式'を1

$$y = a \cdot e^{bx} \text{ の式'を利用する}$$

対数
変換 $\log(y) = \log(a) + bx$

$$\text{つまり, } y' = \log(y), \quad a' = \log(a) \text{ として}$$

$$y' = a' + bx$$

重因分析

(1) 従属変数 説明変数

(2) 従属変数 説明変数

R^2 -値 (危険率)

統計的有意確率値

高水準の 説明変数 への 従属変数

宋遼金元(1) 960-1368

宋・元



Date

2020.08.17
2020.06.15
2019.08.22
2018.12.24
2018.10.22
2018.08.20

2020.10.26

2021.02.22

2020.12.21

唐宋の戦乱に終止符をうつ、太祖趙匡胤は宋王朝を創建した。

宋時代の特色は、士大夫階級が成立し、官僚制度が確立されたことにある。

太祖趙匡胤は、唐五代宋の戦乱の原因は、節度使にあるとして、その権限剥奪を行ない、中央集権化を図り、膨大な官僚群を削減した。

宋

科擧は、宋代に画期的な改革があった。地方で行われる「乡試」、中央で行われる

「会試」、皇帝が升座から臨幸して行う「殿試」によって、皇帝の官僚、一身を存せしめ

天下の政治に任じらる者が輩出して来た。

節度使

唐五代時代に辺境の要地に布かれた軍国の司令官。軍事、政治の両方を握り、貴族、官僚に代り民政も掌握した。

趙匡胤 zhào kuāng yìn

傭兵の

think

入軍国の司令官。軍事、政治の両方を握り、

宋辽金元 (2) 960-1368

No.

Date

太祖趙匡胤の皇帝擁立

黎明軍士環甲執兵、直叩寢門曰、「諸將无主。願策大尉为天子。」

羅捧呼万岁。擁上弓南行、拒之不可。恭帝遂禪位。故国号曰宋。

即位之初、頗为微行。微行愈数。曰、有天命者、任自为之。不汝禁也。

中外響應。

1976年4月、毛は華国鋒に全権を任せ、鄭をすべての公転から追放した。5月30日ニエラチのセントカーン首相に会。在斯に、華はマニラの紙切れを渡した。

慢慢来、不要着急、照过去方針行事、对奇事、我放心。

10月6日夜、四人組が逮捕され大衆は歓喜し、安堵した。

華は自分の地位を多少に固めたが、鄭小平批判を繰返し、その後ろを導くことを造った。

彼の親美を認めることを躊躇した。鄭は、指導者として最も早期に華への支持を打ち出した。

その後の四人組裁判は、大衆が急進派を沢山思惑を増んたことを証明であった。在斯、一ヵ月がかりで島内、中には改革開放の確たる支持であった。

科挙

政界にばかりと勢力を張っていた 貴族階級の勢力を
削減するため、隋の文帝が採用し、唐代になく普及した。
しかし唐代においては、官吏の採用の時点でもって
貴族階級の勢力を張る手段となつた。

それを改革し、天子の官僚としたのが 宋の太祖であった。
天子の内下生

宋了金元 (3) 960-1368

No.

Date

太祖趙匡胤の創立と治世を助けた二人の名臣、宰相の趙普、將軍の曹彬

下の息子鄧小平は、アフリカの知人に対し、父は、アフリカの発展を助けたと
思っていると述べた。アフリカ人は、まず政治制度の改革の手をかけたが、
それでは、彼らの経済問題を解決する 権力を持つべき人々を、人々を、彼を
指導する 道に進む必要がある、と言ったという

彼は、民衆のやる気を保つために 不可決なことを、

物質的刺激と 進歩しているという実感の両方と確信していた

彼はまた、たいへん経済は競争の下でよく育つと信じていた

彼は、対外政策と軍事については、他の意見を求めた。自衛の問題を徹底して
考え抜き、最終的には誰にも相談せずに 決定を 編み出すことを決めた。

しかし 経済に関しては、中国は経済戦略家として 選定された 中から 可能な行動指針を
提案してくれる存在が必要だった。この重要な役割のために、最初には陳雲と、
そして後には趙紫陽を頼みかけた。しかし彼は、最終決定を 不受制限に行うは、
決して高すぎると信じていた

1977年、78-79年 鄧小平

宋 趙全元 (4) 960-1368

No.

Date

太祖の治政

よ、仁孝寛大、有大度。陈桥之变、迫於衆心。迫入京師、市不易肆。

晩節好讀書、嘗嘆曰、光武之世、四凶之罪、止於投巖。何止此、法刑

之密邪。前平諸國、必招之、不至而后用兵。及其既降、皆不加戮、

礼而存之、終其世。

策別科舉人、故進士榜、嚴覆試法、御殿亲試進士。

二代目太祖 趙匡義

分裂抗争していた天下の統一の端緒をもたせし後周の世宗は織田信長。

世宗の後を経て天下を統一した太祖は豊臣秀吉。この後を経て宋王朝の

の礎を築きしは徳川家康にあつた。

科擧 首擧合格者 狀元 諸擧眼 三擧 探花

宋 遼 金 元 (8) 960-1368

No.

Date

宋 遼 金 元
蒙古 ジンギス・ハンの帝に即位
↓
中日本 女真族 金 (対立) 漢族の宋
金 世宗 } 三つともこの国を

宣懿后月倫適生太祖。手握凝血。如赤石。神元異元。

因以所獲鉄木真名之。志武功也。元年：大会诸王群臣。
建九游白旗即位。群臣共上尊号。曰成吉思(汗)皇帝。

太祖深沉有大略。用兵如神。故能灭口四十。其勋绩甚衆。
史之记载不备。惜哉。

太祖 ジンギス・ハンは、(在位 22 年 66 才) 沈着で、しかも雄略を
持ち、その用兵は神技のようであった。

それにより、彼が滅ぼした国は 40 にもより、きわめて大きな治績を
残している。

名宰相 耶律楚材

政治顧問

宰相

遼
 (1190. ~ 1244年) 契丹人、金の官吏、
 シンギス・ハーン(太祖)、オゴタイ・ハーン(太宗)に仕える
 蒙古の国家財政体系を確立

元以耶律楚材言、始定天下赋税。朝臣皆谓、太轻。

耶律楚材曰、将来必有以利进者。则已为重矣。

、シンギス・ハーン

元太祖至東印度、有一兽、鹿形马尾、绿色而一角。能作人言。

曰、宜早还。太祖以问耶律楚材。答曰、此兽名角端。能言四方语。

好生而恶杀。此天降符、以告陛下。願承天心、有此兽以命。

太祖即日还师。

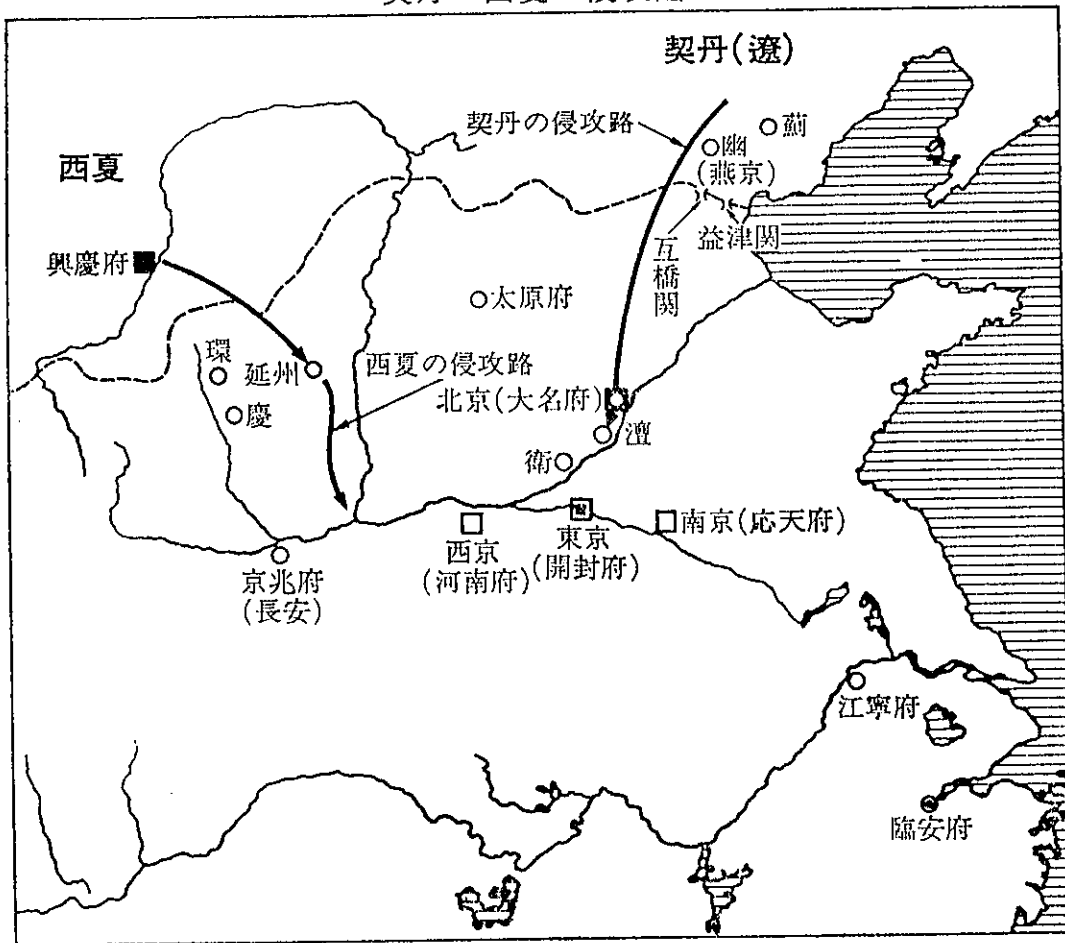
一利を兴すは、一害を除くに如す

楚材每言、兴一利不若除一害。生一事不若减一事。

宋
了
金
元
(5)

960-1368

契丹・西夏の侵攻図



8

宋
辽
金
元

907 朱全忠 後梁 王建 唐 滅亡 五十四年
960 後周 趙匡胤 宋 建立

入宋僧成寻

(1)-2

960-1368

894年（唐乾宁元年，日宽平六年）日本停止遣唐使。菅原道真一行入唐的决定以后，中国和日本之间就不再有正式的官方往来。其实，菅原道真和纪长谷雄担任大使、副使的那一次根本没有出国；实际上最后一次和中国的官方往来，是838年（唐开成三年，日承和五年）入唐的那一次，即以藤原常嗣为大使，副使小野篁托病不行和圆仁、圆载、圆行等作为请益求法僧同行的那一次。也就是说，从九世纪中叶以后，中日两国的外交关系，已陷于中绝状态。这种官方的往来，以后一直没有恢复，即使到了赵匡胤代周而兴，结束了五代时的混乱，重建统一的宋朝政权以后，日本所用以停止遣派遣唐使的理由，已不再存在时，也并没有恢复。

很明显，日本的停派官方使节到中国，建立政府间的联系，其原因是多方面的，中瓊的报告只是一个借口。真正促使其停派使节，甚而到后来也不再专诚派遣的原因，当然中国方面因连年战祸而经济凋敝，确实是一个原因；但主要的，甚而到中国恢复正常秩序，建立统一王朝以后仍然不派遣使节的原因，在于日本的经济凋敝；也在于当时中日之间虽有一海相隔，但造船和航海技术的发展，已克服了这些困难，中国的商人到日本已相当频繁，日本贵族、地主所需要的，泰半可以从这些民间贸易中得到满足，用不到象过去那

样，非仰赖于多少年一次的遣唐使节了。这原因到十世纪，中国有一统一的宋朝以后，更见突出，因此没有必要非恢复正式的官方往来不可。

随着民间贸易的增加，双方往来的人次也日见增加。虽然没有象遣唐大使、副使那样由政府任命派遣的使团。

商人，在中国的习惯上是不受重视的，所以九世纪中叶之后，尽管来往两国之间的商船已相当多，但在中国史籍上却只字不见。到宋朝，尽管入宋僧的来往，都是搭乘从事两国间贸易的商船，而且在事实上，商船往来之频繁，已达到不能再避而不谈的程度。就这样，在《宋史》的记载中，绝大部分还是记的入宋僧，只在后面稍一提到海贾而已。因此，今天我们除了在字里行间，了解到一些当日来往于两国间的商船主人和合伙的贸易商外，就无法再知道其他了。其实，就宋朝而论，中日两国关系中，应该以从事民间贸易的商人为主的。

谈论到宋代中日关系，由于官撰史书《宋史》中用极大的篇幅谈的是入宋僧；有关的笔记和私人记载中，大部分记的也是入宋僧，所以象用遣唐使来代表唐代中日两国的关系一样，一般都以入宋僧的往来，视作宋朝时中国和日本通交往来的中心。其实，这就是上面所述是片面和不正确的。

就是用入宋僧的情况来说明宋代的中日关系，我国史籍上所记载的，也有不少遗漏，很难全面地说明。《宋史》卷491外国传中的日本传里面，谈到的入宋僧是：

雍熙元年（984，日永观二年），与其徒五、六人浮海而至的日本国僧奝然；

景德元年（1004，日宽弘元年）来朝的寂照（昭）；

熙宁五年（1072，日延久四年）至台州天台国清寺的僧诚（成）寻；

元丰元年（1078，日承历二年）来的通事僧仲回。《宋史·日本传》中，虽然记载有“是后，连贡方物，而来者皆僧也。”但传中只列举了上述几事。就在上述几人中，也是详简不一，只有对裔然入宋后和离宋回国后的情况，记述较详，其他的都很简略，如记寂照（昭）是“寂照不晓华言，而识文字，缮写甚妙，凡问答并以笔札。诏号圆通大师，赐紫方袍。”对诚（成）寻，也只说：“有僧诚寻至台州，止天台国清寺。愿留州，以闻；诏使赴阙。诚寻献银香炉、木槌子、白琉璃、五香、水精、紫檀、琥珀所饰念珠及青色织物绶。神宗以其远人而有戒业，处之开宝寺，尽赐同来僧紫方袍。”仲回则更简单。

这些记载，当然是无法了解宋代中日关系全貌，也无从知道入宋僧情况的。好在这些僧侣，类多有日记之类的留下，象圆仁的《入唐求法巡礼行记》似的日记，使后人能从中知道一些具体事实。宋时入宋的日本僧留下的也不少，就上述裔然、寂昭、成寻、仲回四人中，现在知道的就有裔然、寂昭、成寻三人。可惜的是裔然等的有记载（成寻：《参天台·五台山记》卷四、卷六所记）而无原文；成寻的《参天台·五台山记》是留了下来，可是讹夺甚多，而且版本之间还有差别，不过仍然是极宝贵的史料。在这些记载中，除了能见到当时在佛教方面两国交流的情况外，还可以知道当时中国社会和政治方面的事情。此外，从这些记载中，也能了解到中国和日本在一些具体事实上的出入和不同看法以及日本社会的大概。